

『青陵』の街

人がいきいきと交流し理性を育む、
四季を感じる、賑わいと良心がふれあう街

青陵という言葉には

「希望にあふれた若者を育てる緑豊かな丘」という意味があり、
キャンパス内にある旧制福岡高等学校の記念碑や

同窓会の名称として使われています。

若々しく凛とした響きのある青陵を、

六本松キャンパス跡地のまちづくりに活かし、

『青陵』の街という言葉に「人がいきいきと交流し理性を育む、

四季を感じる、賑わいと良心がふれあう街」という思いを込めています。

この跡地では、歴史や緑とふれあうことができ、

司法や賑わい、学び、コミュニティなどが身近に感じられる、

地域と共に成長する『青陵』の街の拠点を目指します。

『青陵』の街

四季を
感じる街

理性を
育む街

人が
いきいきと
交流する街

賑わいと
良心が
ふれあう街

■まちの将来像

『青陵』の街

■まちづくり方針

緑をつなぐ

学びをつなぐ

人をつなぐ

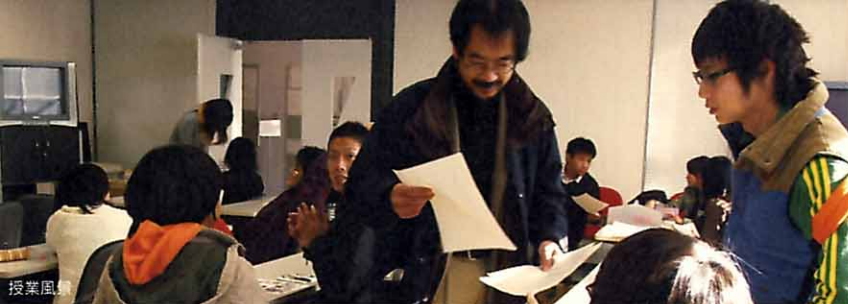
空間をつなぐ

緑をつなぐ

キャンパス内の成熟した緑と
新たな緑を調和させ、
四季を感じられる
景観づくりを行います。



六本松キャンパス



授業風景 (1935年頃)



旧福岡高等学校構内(1937年頃)



六本松キャンパス中庭



授業風景

学びをつなぐ

旧制福岡高等学校から
九州大学へ続いてきた
88年の学びの歴史・文化を
受け継ぎ、人を育て、
理性を育む環境づくりを
行います。



六本松キャンパス正門



六本松キャンパス



旧制福岡高等学校構内(1941年)



大濠公園



六本松キャンパス近景



梅光園緑道



九州大学箱崎キャンパス



イメージ



イメージ

人をつなぐ

六本松の利便性を活かし、
訪れる人や働く人、
暮らす人などの様々な人が
交流できる場づくりを行います。



国道202号線

空間をつなぐ

新たな司法機能などが
周辺地域と調和し、
新たな賑わいを生み出す
空間の仕かけづくりを
行います。



国道沿いの街角広場



イメージ



イメージ



地下鉄七隈線六本松駅入口



イメージ

九州大学六本松キャンパス跡地 「まちづくりコンセプト」



UR都市機構

歴史が生きる新たなまちづくりを
UR都市機構が、進めています。

九州大学六本松キャンパスは、旧制福岡高等学校時代から88年の長きに渡り、多くの若者を社会に送り出し、人々に愛されてきました。しかし、九州大学の新キャンパス整備にともない、この六本松キャンパスも移転します。六本松キャンパス跡地の6.5haのまちづくりには、卒業生をはじめ、市民を含む多くの関係者が注目しており、様々な期待が寄せられています。

■六本松の変遷



キャンパス跡地の利用については、福岡市により策定された「九州大学六本松キャンパス跡地利用計画」において、跡地利用のゾーニングが示されました。南側が「周辺の閑静な住宅地になじむ司法機能」、北側が「交通の利便性を活かし、賑わいの創出や地域の活性化に貢献できる機能」という計画です。UR都市機構は「人が輝く都市をめざして、美しく安全で快適なまちをプロデュースする」という企業理念のもと、「九州大学六本松キャンパス跡地利用計画」の実現に向けて、地域や関係者と共に取り組みます。

■跡地利用計画のゾーニング(約6.5ha)



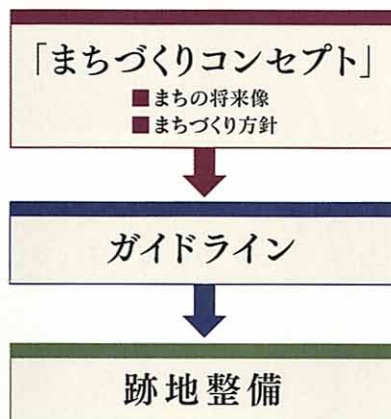
九州大学六本松キャンパス跡地利用計画(H19.5 福岡市策定)より

まちづくりコンセプトは
さまざまな声を反映して、策定しました。

六本松キャンパス跡地の計画を進めていく上で、整備の方向性を分かりやすく示すために「まちづくりコンセプト」をとりまとめました。

策定にあたっては、「九州大学六本松キャンパス跡地まちづくりコンセプト委員会」を設置し、様々な分野の専門家の方や、地域を代表する方から幅広くご意見を伺っています。

コンセプトは、跡地の整備イメージとなる「まちの将来像」と、その将来像を実現するための「まちづくり方針」から成り立っています。今後は、このコンセプトを踏まえ、具体的整備ルールとなるガイドラインを策定し跡地整備へと進んでいきます。



「人がいきいきと交流し理性を育む、四季を感じる、賑わいと良心がふれあう街」に込めた思い。

平成19年5月に福岡市が策定した「九州大学六本松キャンパス跡地利用計画」には、六本松キャンパス跡地に司法機能等が移転してくることが示されています。全国でも例が少ない、司法と一体となったまちづくりということを表現するために、コンセプトでは「理性」と「良心」という2つの言葉を使っています。アカデミックで探求的な人材育成という役割を担ってきた九州大学が移転し、あらたに司法機能がこのまちの中心となることから、「理性」と表現しています。また、裁判官の姿勢を表現する「法と良心」というフレーズから、司法機能を「良心」という温かみのある言葉で言い換えています。



福岡の未来を考えるプロジェクトです。



第1回委員会 平成20年12月17日
エルガーホール7階会議室II



第2回委員会 平成21年1月28日
九州大学六本松キャンパス



第3回委員会 平成21年2月14日
都久志会館 1階 アトリエ102



第4回委員会 平成21年3月11日
TKP博多シティセンター 阿蘇2会議室



六本松キャンパス跡地整備は、福岡市が今後発展していく上でも重要なプロジェクトであり、そのコンセプトは今後の方向性を示す大切なものである。旧制福岡高等学校から九州大学へと続いてきた人材育成の場としての歴史と、福岡市の都心部と郊外を結ぶ六本松地区の潜在力を活かしながら、新たに立地する司法機能が地域のまちづくりに如何に関わるかといったテーマに、関係者と地域が共に取り組まれることを期待したい。

コンセプト委員会 座長
九州大学大学院 人間環境学研究院

教授 出口 敦



委員
九州大学大学院人文科学研究院
教授 折田 悦郎



委員
古賀・西村法律事務所
弁護士 古賀 和孝



委員
株式会社ZEN環境設計
代表取締役社長 中村 久二



委員
株式会社西広案内ぐらんど編集部
編集長 福嶋 明子



委員
佐賀大学理工学部都市工学科
准教授 三島 伸雄



委員
草ヶ江校区まちづくり協議会
副会長 森友 俊隆

旧制福岡高等学校・九州大学六本松キャンパスの歴史

大正10年	11月	旧制福岡高等学校設置
昭和24年	5月	旧制福岡高等学校は「九州大学福岡高等学校」と改称
	7月	新制九州大学「第一分校」設置
昭和43年	3月	「青陵の泉」建造
平成 3年	10月	九州大学評議会において、「九州大学新キャンパス移転構想(学長試案)」承認
平成 6年	4月	教養部を廃止
平成10年	12月	国有財産九州地方審議会が「九州大学移転跡地の利用に関する基本方針について」を答申
平成17年	10月	伊都キャンパス第一期開校(工学部)
平成18年	6月	九州大学が六本松キャンパスの伊都キャンパスへの直接移転を決定
平成19年	5月	福岡市が「九州大学六本松キャンパス跡地利用計画」を策定 (委員:学識経験者、地元住民代表、国、県、市、九大、UR)
平成21年	3月	UR都市機構が「まちづくりコンセプト」を策定 (委員:学識経験者、地元住民代表) 九州大学六本松キャンパスが伊都キャンパスへ移転



「青陵の泉」建造



まちづくりコンセプト策定

位置図



独立行政法人都市再生機構 九州支社

〒810-8610 福岡県福岡市中央区長浜2-2-4

TEL:092-722-1072 FAX:092-722-1015

www.ur-net.go.jp/kyusyu/ropponmatsu/